

令和2年度千葉県小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 実績

1 必須事業

| 保健所 | 区分 | 事業名 | 実施回数 | 来所実数 | 来所延数 | 事業目的・内容 | ①対象者 ②出席者数 ③会場 ④時間 ⑤周知方法 ⑥受付方法 | 評価・事業の効果 |
|-----|-----------|--------------------------------|------|------|------|---|--|--|
| 市川 | 療育相談指導 | 小児慢性特定疾病指定医療費助成制度申請時面接および訪問 | 随時 | 57 | 71 | 【目的および内容】 小慢児やその家族における療養上の不安解消を図るため、保健師が小慢申請時等に面接および訪問し相談を行う。 | ①小児慢性特定疾病医療費助成制度申請者および受給者とその家族 ②左記のとおり ③市川保健所および対象児宅、対象児が入院する病院 ④随時 ⑤制度申請時に直接声掛けを行う ⑥⑤の際に、了承を得られたケースに対応する。また、家族の希望時に対応する。 | 制度新規申請時に面接または電話を全数実施し、療養状況の確認や必要時自宅訪問、関係機関との連絡調整を図る機会とした。これらを行うことで、対象者との関係づくりやより良い療養生活を送る支援の一助となっている。 |
| 松戸 | 療育相談指導 | 小児慢性特定疾病医療費助成制度申請時面接および訪問 | 随時 | 27 | 32 | 目的および内容 小慢児童等やその家族の療養上の不安解消を図るため、保健師が制度申請時に面接および必要がある人に訪問し相談を行う。 | ①小児慢性特定疾病医療費助成制度申請者および受給者とその家族②新規申請及び更新申請時面接や訪問に応じた回数③約600名程度 ④松戸健康福祉センターならびに対象児宅⑤随時⑥制度申請時に案内 ⑦制度申請時に面接の了承を保護者にもらい受付。訪問は地区担当保健師が必要としたとき、また家族の希望時に受付。 | 今年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、更新申請なく、自動延長となったことから面接数の減少となった。しかし、必要な人には、訪問、TEL相談を実施し、支援を実施した。 |
| 山武 | 療育相談指導 | 小児慢性特定疾病児童等やその家族に対する面接・訪問等指導事業 | 随時 | 13 | 24 | <目的> 小慢児童等やその家族の日常生活上の悩みや不安解消を図る。 <内容> 小慢児童等やその家族に対し、保健師等が面接・訪問指導等を行う。 | ①小慢児童等やその家族②実13名延24名③山武保健所等④随時⑤小慢医療費助成制度申請時等⑥対象者の療養状況により、地区担当保健師等が判断し支援する。 | 小慢医療費助成制度新規申請者に対し、保健師等が全数面接を実施。その他、医療的ケア児等対象者の療養状況に応じて、地区担当保健師が面接・電話等による個別支援を行った。 新規申請時に全数面接することにより、療養状況を把握でき、早期に必要な支援を行うことができるほか、対象者に相談窓口周知する機会にもなっており、後日、相談につながることもあった。 |
| 夷隅 | 療育相談指導 | 個別相談 | 随時 | 5 | 7 | 小児慢性特定疾病医療費助成を受給する児及び家族を対象に、療養体制を充実させるため保健師による相談と支援を実施する。 | ①小児慢性特定疾病医療助成を受給する児及び家族 ③夷隅健康福祉センター地域保健福祉課窓口 ④随時 ⑤窓口申請時や関係機関からの案内 ⑥電話、来所、訪問等 | 今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、相談対応数は減少したが、申請の機会を活用し相談対応を行った。また、必要なケースに対しては、関係者間で連絡を取り合い支援体制の構築に努めた。 |
| 君津 | 療育相談指導 | 小児慢性特定疾病医療費助成制度申請時面接および訪問 | 随時 | 9 | 13 | 目的 小児慢性特定疾病受給者とその家族の療養上の不安の解消を図る。 内容 保健師が重症認定申請用紙を持参した受給者及び家族に面接及び訪問を行う。 | ①小児慢性特定疾病医療費助成受給者およびその家族 ②左記のとおり ③君津健康福祉センターならびに対象児宅 ④随時 ⑤制度申請時案内 ⑥申請時 | 面接した家族に対し、必要時自宅訪問や退院後の社会資源の活用について関係機関との調整を行うことができた。しかし少数であり、管内地区の受給者の特性等を把握するには不十分であった。次年度は全疾患の新規申請、更新時の保健師の面接を実施しアセスメントする必要がある。 |
| 印旛 | ピアカウンセリング | 災害準備ノートの作成 | | | | 人工呼吸器装着者や人工心臓装着者等に対し、災害時の備えを推進し、自助の意識を高めるために、「災害準備ノート」を印旛保健所で作成し配付した。 | ①小児慢性特定疾病医療費受給者で人工呼吸器、人工心臓等装着者28名に対し案内を送付し、26名から返信があり、作成した。また、災害時の支援体制を構築するための一歩として、相談支援員や訪問看護師等に情報提供した。 | 対象者28名に対し26名から作成の協力が得られ関心の高さが感じられた。ノートに患児に関する情報を記載することで自助意識は多少高まったと思われる。また、関係機関に情報提供したことで災害時の支援体制に向けての意識づけができたと思われる。 |
| 長生 | ピアカウンセリング | ダウン症児親の会によるピアカウンセリング | 1 | | | 【目的】 ダウン症児等小児慢性特定疾病児童等を抱える保護者は身体や心理、社会的に不安を抱えている。療育上の悩みや不安についての助言を行い、不安の軽減を図る。 【内容】 養育経験者(ダウン症親の会)によるピアカウンセリング | ①小児慢性特定疾病児の保護者等で療育の不安等を抱えている保護者 ②5名 ③ZOOM ④1月14日 15:30～16:30 ⑤管内市町村や保育所、幼稚園、学校 等関係機関にチラシの配布依頼 ⑥保健所での電話での受付 | 当初予定では対面でのカウンセリングを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、対象者の環境によって電話やZOOMでの開催と変更した。 実際に相談があったのは1件だったため、開催は1回だったが、市町村保健師からの相談等は何件もあった。 実際に相談した方はこれからの療育の相談や、児の発達について相談しており、相談後は明るい表情がみられ、相談してよかったとの声がかかった。 |

